

■「相談支援及び情報提供」の目指す姿■(第2期計画策定時に設定した目指す姿)
 ○全てのがん患者やその家族が、不安や悩み、疑問に対して、いつでも身近なところで、必要な情報を手に入れることができ、その悩みや疑問が軽減している。
 ○上記の目標を達成するため、がん患者やその家族が活用しやすい相談支援体制の整備が進んでいる。

2 がん患者等への支援
 (1)相談支援及び情報提供
 ①患者やその家族のニーズの把握

●は中間評価の時点で追加した指標

○目標のために取り組んだこと(個別施策)の進捗状況

主な取組	実 績			個別施策の指標	参考値または ＜計画策定時基準値＞	計画策定時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No)
	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予定含む)						
患者・家族満足度調査の実施	・「ならのがんに関する患者意識調査」の実施(H25.10)	・がんの在宅療養に関する意識調査の実施(H26.8)	・「ならの患者体験調査」の実施(H27.10)	がん患者やその家族の満足度等の評価方法についての検討結果の公表	—	3年以内に公表	中間評価時に調査を実施し結果を公表(H27)	目標達成	—

○目標(主に中間評価の時点で協議会で設定した目標)の進捗状況

目 標	指 標	参考値または ＜計画策定時基準値＞	計画策定時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No)
(1) がん患者・経験者の相談支援体制や就労に関するニーズや課題が明らかになっている	●がんと診断されたとき担当医以外に、病気のことや療養生活に関する様々な疑問について相談できる場があった人の割合	34.6% (H25度)	—	25.8% (H27度)	減少	(2) (4)
	●がんの治療中に、治療と仕事を両方続けられるような支援または配慮を事業主から受けた人の割合	74.4% (H25度)	—	77.6% (H27度)	増加	(2) (4)
(2) 患者に必要な情報が提供されている	●がんにに関する情報を手に入れるための方法(本・インターネット等)を知っている人の割合	24.5% (H25度)	—	28.9% (H27度)	増加	(2) (4)
	●がんの治療方法についての情報が、不十分と回答のあった人の割合	<35.8%> (H22度)	25% (H29度)	33.6% (H27度)	減少	(2) (4)
(3) 患者の闘病上の不安や悩みが軽減されている	●がん治療を決めるまでの間、医師、看護師、他の医療スタッフからほしいと思う情報の提供があったと回答のあった人の割合	82.8% (国H26度)	—	87.8% (H27度)	国より高い	(8) (4)
(4) 患者の不安や悩みの発生が抑えられている	●がん患者の家族の悩みや負担をやわらげてくれる支援・サービス・場所があると答えた人の割合	33.0% (国H26度)	—	23.1% (H27度)	国より低い	(8) (4)

患者やその家族の ニーズの把握 進捗状況概要	○ニーズ把握 ・計画策定時は実施困難であった「患者・家族満足度調査」は、協議会や部会、病院の協力によりH25度より毎年実施し、患者ニーズを把握することができた。
------------------------------	---

指標について 気づいた点	・施策の柱として「患者やその家族のニーズの把握」は、当然実施すべきものであり、施策の柱からは外すべきと思われる。 ・目標達成している指標は新たな指標の検討必要。
-----------------	---

■「相談支援及び情報提供」の目指す姿■(第2期計画策定時に設定した目指す姿)
 ○全てのがん患者やその家族が、不安や悩み、疑問に対して、いつでも身近なところで、必要な情報を手に入れることができ、その悩みや疑問が軽減している。
 ○上記の目標を達成するため、がん患者やその家族が活用しやすい相談支援体制の整備が進んでいる。

2 がん患者等への支援
 (1)相談支援及び情報提供
 ②相談支援機能の強化

○目標のために取り組んだこと(個別施策)の進捗状況

●は中間評価の時点で追加した指標

主な取組	実績			個別施策の指標	参考値または ＜計画策定時基準値＞	計画策定時 目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No.)
	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予定含む)						
相談支援センターの相談内容等の情報共有	・相談支援分科会での情報共有(年4回) [拠点病院協議会]	・分科会開催(年4回)	・分科会開催(年4回) ・地域相談支援フォーラムin近畿の開催(H28.1)[拠点病院]	相談支援センターへの他施設からの利用者数の割合	＜33.8%＞ (H24)	増加	31.9% (H27)	減少	(1)
相談支援センターの相談実績の集計方法の統一化	・がん相談支援センターでの相談実績の集計方法の統一化								
相談支援センターにおける相談支援満足度調査の実施	・がん相談支援センター利用状況調査の実施(H25.8～9)	(H27.1～3)	(H28.2～3)						
相談員必携「がん相談のためのサポートガイド」の作成	・相談員必携「がん相談のためのサポートガイド」1,000部作成・配布	・サポートガイド継続配布	・「がん相談センター相談員のためのガイドブック(国がん)」をがんネットならにリンク						
拠点病院相談支援センターの相談員の資質の向上	・国立がん研究センターの研修への参加... 基礎研修(3) 既10人、新規2人 指導者研修 既3人、新規3人 [拠点病院]	・基礎研修(3)新規3人 指導者研修 新規3人 [拠点病院]	・基礎研修(3) 新規1人 [拠点病院]	国立がん研究センター【相談員基礎研修(1)～(3)】を受けた相談員(専従・専任)の割合	＜57.1%＞ (H24)	増加	100% (H27)	H26から 拠点病院の 新指針の 要件	(1)
県内医療機関等のがん相談に対応している相談員を対象とした研修会の実施	・がん相談支援従事者研修会の実施(H25.6)[拠点病院]	・研修会の実施(H26.6)[拠点病院]	・研修会の実施(H27.9) [拠点病院]	県内医療機関の相談窓口体制の整備状況	＜25施設＞ (H23)	増加	37施設 (H25)	増加	(23)
県内の相談支援体制のありかたの検討	・拠点病院のない南和医療圏に相談窓口の設置(吉野保健所) ・相談支援センター拠点病院5カ所・支援病院1カ所継続設置 ・県内医療機関のがん相談窓口設置の把握	・相談支援センターを支援病院2カ所に設置		がん診療連携拠点病院・支援病院の相談支援センターの利用者数	＜2,591件＞ (H23)	8,000件 (H29)	4,259件 (H26)	増加	(1)
相談支援センターのPR	・イベント等でチラシ、療養ガイド冊子の配布 ・拠点病院におけるPR方法の検討 [拠点病院]	・広報誌「県民だより」掲載 ・PR方法検討、チラシ作成、配布(継続) [拠点・支援病院]	・奈良新聞に掲載	相談支援センターの認知度	＜24.7%＞ (H22度)	50% (H29度)	54.7% (H27度)	目標達成	(22) (4)

○目標(主に中間評価の時点で協議会で設定した目標)の進捗

目標	指標	参考値または ＜計画策定時基準値＞	計画策定時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No.)
(1) 必要とする最新の情報を正しく提供し、きめ細やかに対応できている 中間	相談支援センターにおける利用者の満足度 相談支援センターにおける相談において「相談事が解決した」と回答のあった人の割合(変更後)「相談事が役に立った」と回答のあった人の割合	＜63.6%＞ (H24度)	3年以内に評価方法を決定し目標値を設定	80.0% (H26度)	H25より質問項目変更のため最新値が今後の基準となる	(21)
(2) 活用しやすい相談支援体制を早期に実現している 中間	●がんに医療に関する相談支援及び情報提供について誰に相談すればよいかのわからないと回答のあった人の割合	19.8% (H25度)	—	25.0% (H27度)	増加	(2) (4)
(3) 患者に必要な情報が提供されている 最終	●がんにに関する情報を手に入れるための方法(本・インターネット等)を知っている人の割合	24.5% (H25度)	—	28.9% (H27度)	増加	(2) (4)
	●がんの治療方法についての情報が、不十分と回答のあった人の割合	＜35.8%＞ (H22度)	25% (H29度)	33.6% (H27度)	減少	(2) (4)

目 標	指 標	参考値または ＜計画策定時基準値＞	計画策定時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No.)
(4) 患者の闘病上の不安や悩みが軽減されている	患者やその 家族の満足度 (がん治療に関して不安や不満に思う人の減少) 「主治医の他に相談先がない」と回答のあった人の割合	<39.0%> (H22度)	3年以内に評価方法を 決定し目標値を設定	44.5% (H27度)	基準値最新値を もとに目標値を 設定予定	(22) (4)
	最終	●がん治療を決めるまでの間、医師、看護師、他の医療スタッフからほしいと思う情報の提供があったと 回答のあった人の割合	82.8% (国H26度)	—	87.8% (H27度)	国より高い (8) (4)
(5) 患者の不安や悩みの発生が抑えられている	最終	●がん患者の家族の悩みや負担をやわらげてくれる支援・サービス・場所があると答えた人の割合	33.0% (国H26度)	—	23.1% (H27度)	国より低い (8) (4)

相談支援機能の強化 進捗状況概要	<p>○相談支援体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院5カ所と支援病院1カ所に設置していたがん相談支援センターに、支援病院2カ所を追加、拠点病院のない南和医療圏の相談窓口を吉野保健所に継続設置し、9カ所となった。 ・相談支援センターの利用状況を毎年度把握し、拠点協議会の分科会で情報共有を進めるとともに、相談窓口の協力体制の構築を図った。 <p>○相談員の資質向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県拠点病院の相談員が国の基礎研修や指導者研修に多数参加、さらに講師役として県内の医療機関の相談員を対象に研修会を開催。 ・がん相談員のためのサポートガイドを作成し、相談員に広く配布するなど、県内全体の相談員の資質向上に努めた。 ・目標の進捗状況を見ると、相談支援センターの認知度が目標の50%を超えたものの、がんの情報そのものや相談相手、情報の入手方法などに対する認知度、満足度は依然低い。 ・一方、相談支援センターの利用者は「非常に役に立った」方が80%と満足度は高い。 <p>(相談支援・情報提供部会から意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援センターの利用者の満足度は高い数字になっているが、拠点病院の相談員の資質向上や、県拠点病院を中心とした、地域拠点病院や支援病院との協力連携体制は一定の成果を得ていると考える。 ・今後は、県拠点病院が中心となり、機会を捉えてより高い相談技術の取得を図るとともに、窓口全体の均てん化を促進することが重要。 ・相談支援センターのさらなる周知としては、広い周知も必要だが、まずは、患者等に勧める立場である医療関係者への周知を徹底することが重要。
-------------------------	---

指標について 気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・「認知度」は個別施策の指標にふさわしくない。 ・「相談支援センターへの他施設からの利用者の割合」について、県内医療機関の相談機能の均てん化を目指す意味で、割合が上がるのが良いとはいきれない。指標の内容を検討する必要がある。 ・目標達成している指標は新たな指標の検討必要。
-----------------	--

■「相談支援及び情報提供」の目指す姿 (第2期計画策定時に設定した目指す姿)
 ○全てのがん患者やその家族が、不安や悩み、疑問に対して、いつでも身近なところで、必要な情報を手に入れることができ、その悩みや疑問が軽減している。
 ○上記の目標を達成するため、がん患者やその家族が活用しやすい相談支援体制の整備が進んでいる。

2 がん患者等への支援
 (1)相談支援及び情報提供
 ③ピアサポート活動の活性化

○目標のために取り組んだこと(個別施策)の進捗状況

●は中間評価の時点で追加した指標

主な取組	実 績			個別施策の指標	参考値または ＜計画策定時基準値＞	計画策定時 目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No)
	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予定含む)						
がんピアサポーターの育成・スキルアップ支援	・ピアサポーター養成研修の実施(H25.9)	・ピアサポーターフォローアップ研修の実施 ・ピアサポーター意見交換会の実施	・ピアサポーター意見交換会の実施	がんピアサポーター数(養成数)	<33人> (H24度)	50人 (H29度)	48人 (H25度)	増加	(24)
ピアサポート活動指針の作成	・ピアサポート活動指針に関する情報収集	・ピアサポーター意見交換会で患者の意見収集	・ピアサポーター意見交換会で、患者サロン運営の意見をまとめ拠点病院に提案 ・全拠点病院に対しピアサポーターと連携したサロン運営の強化を提言 ・ピアサポーターの県事業への参画推進(参加希望者リスト作成)	患者サロンの利用者数	<609人> (H23度)	増加	797人 (H26度)	増加	(25)
患者会等の自主的な活動の活性化	・吉野保健所患者サロンの継続 ・郡山保健所での患者サロン設置 ・患者サロン拠点病院5カ所・支援病院1カ所継続設置 ・「ならのがん対策県民提案事業」の実施(3団体委託)	・患者サロン支援病院2カ所設置 ・県民提案事業(4団体委託)	・中和保健所に患者サロン設置 ・県民提案事業(4団体委託)						
患者サロンのPR	・拠点病院におけるPR方法の検討[拠点病院]		・病院とピアサポーター連携し周知方法検討[拠点・支援病院] ・県民だよりや病院でのサロンを周知	患者サロンの認知度	19.6% (H25度)	3年以内に目標値を設定	21.9% (H27度)	基準値最新値をもとに目標設定予定	(2) (4)

○目標(主に中間評価の時点で協議会で設定した目標)の進捗状況

目 標	指 標		参考値または ＜計画策定時基準値＞	計画策定時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No)
(1) 必要とする最新の情報を正しく提供し、きめ細やかに対応できている 中間	相談支援センターにおける利用者の満足度	相談支援センターにおける相談において「相談事が解決した」と回答のあった人の割合(変更後)「相談事が役に立った」と回答のあった人の割合	<63.6%> (H24度)	3年以内に評価方法を決定し目標値を設定	80.0% (H26度)	H25より質問項目変更のため最新値が今後の基準となる	(21)
(2) 活用しやすい相談支援体制を早期に実現している 中間	●がん医療に関する相談支援及び情報提供について誰に相談すればよいのかわからないと回答のあった人の割合		19.8% (H25度)	—	25.0% (H27度)	増加	(2) (4)
(3) 患者に必要な情報が提供されている 最終	●がんにに関する情報を手に入れるための方法(本・インターネット等)を知っている人の割合		24.5% (H25度)	—	28.9% (H27度)	増加	(2) (4)
	●がんの治療方法についての情報が、不十分と回答のあった人の割合		<35.8%> (H22度)	25% (H29度)	33.6% (H27度)	減少	(2) (4)
(4) 患者の病上の不安や悩みが軽減されている 最終	患者やその家族の満足度	(がん治療に関して不安や不満に思う人の減少) 「主治医の他に相談先がない」と回答のあった人の割合	<39.0%> (H22度)	3年以内に評価方法を決定し目標値を設定	44.5% (H27度)	基準値最新値をもとに目標値を設定予定	(22) (4)
	●がん治療を決めるまでの間、医師、看護師、他の医療スタッフからほしいと思う情報の提供があったと回答のあった人の割合		82.8% (国H26度)	—	87.8% (H27度)	国より高い	(8) (4)
(5) 患者の不安や悩みの発生が抑えられている 最終	●がん患者の家族の悩みや負担をやわらげてくれる支援・サービス・場所があると答えた人の割合		33.0% (国H26度)	—	23.1% (H27度)	国より低い	(8) (4)

<p>ピアサポート活動の 活性化 進捗状況概要</p>	<p>○ピアサポーターの育成について ・ピアサポーター養成研修会を開催し、目標50人に対し、48人を養成。</p> <p>○ピアサポーターの活動の場について ・拠点病院5カ所と支援病院1カ所、保健所1カ所に設置していた患者サロンに、支援病院2カ所と、保健所2カ所を追加し、活動の場を11カ所に広げた。 ・サロン以外の活動を促進するため、県事業や病院事業でピアサポーターを募集する際の、情報提供希望者リストを作成した。</p> <p>○患者サロンの運営について ・拠点病院の新指針において「患者団体等と連携した」運営とあるため、ピアサポーターと今後の実施方法や院内での周知方法などを話し合う「運営会議」を実施することを申し入れるとともに、支援病院にも依頼した。 ・ピアサポーターの意見交換会でとりまとめた「患者が望むサロン」等の意見を拠点病院に提言した。 ・患者サロンの利用促進のため、県民だより等で周知した。 ・指標の進捗状況を見ると、サロンの利用者数も認知度も増加しているが、「家族の悩みや負担に対する支援」の周知度は国より低い。</p> <p>○患者団体の活動の活性化支援について ・団体が事業を自主的に企画し運営していくことができるよう、「県民提案事業」として団体に委託。延べ11団体が活用し、今後の活動の基礎を固めた。</p> <p>(相談支援・情報提供部会からの意見) ・患者サロン数は充実してきたが、今後は、患者家族の悩みやニーズに対応できるよう、ピアサポーターと有機的に連携した運営が重要。 ・また、運営者間で情報共有や意見交換をし、患者サロンの均てん化、活性化が必要。 ・患者サロンの周知に関しては、広く周知することとともに、患者の声を反映した周知方法の検討が必要。</p>
--	---

<p>指標について 気づいた点</p>	
-------------------------	--

■「相談支援及び情報提供」の目指す姿 ■(第2期計画策定時に設定した目指す姿)
○全てのがん患者やその家族が、不安や悩み、疑問に対して、いつでも身近なところで、必要な情報を手に入れることができ、その悩みや疑問が軽減している。
○上記の目標を達成するため、がん患者やその家族が活用しやすい相談支援体制の整備が進んでいる。

2 がん患者等への支援

(1)相談支援及び情報提供

④県民への情報提供の推進

○目標のために取り組んだこと(個別施策)の進捗状況

主な取組	実 績			個別施策の指標	参考値または ＜計画策定時基準値＞	計画策定時 目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No.)
	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予定含む)						
医療機関の診療機能、診療実績等の公表(再掲)	・ワンストップポータルサイト「がんネットなら」の開設 (H26.3～)	・「がんネットなら」に国立がん研究センターの損料実績等の情報をリンク ・「がんネットなら」チラシによるPR		県ホームページのアクセス数	＜3,613件＞ (H24.4～9)	増加	1,331件 (H27.4～9)	H25よりシステム変更のため基準値と比較困難	(12)
県ポータルサイトの情報内容の充実とPR(再掲)									
患者必携、療養ガイドの作成とPR	・「患者必携」10,000部 ・「療養ガイド」20,000部作成配布 (H26.3)	・「療養ガイド第2版」7,000部作成、配布 ・「がんネットなら」に冊子をPDFで掲載 ・「がんネットなら」でがん在宅医療機能調査(診療所・薬局・訪問看護)の更新データの掲載	・「療養ガイド」2,000部増刷	がん治療方法について情報が不十分と回答のあった人の割合	＜35.8%＞ (H22度)	25% (H29度)	33.6% (H27度)	減少	(22) (4)

○目標(主に中間評価の時点で協議会で設定した目標)の進捗状況

目 標	指 標		参考値または ＜計画策定時基準値＞	計画策定時目標値	最新値	進捗状況	備考 (出典No.)
(1) 必要とする最新の情報を正しく提供し、きめ細やかに対応できている 中間	相談支援センターにおける利用者の満足度	相談支援センターにおける相談において「相談事が解決した」と回答のあった人の割合(変更後)「相談事が役に立った」と回答のあった人の割合	＜63.6%＞ (H24度)	3年以内に評価方法を決定し目標値を設定	80.0% (H26度)	H25より質問項目変更のため最新値が今後の基準となる	(21)
(2) 活用しやすい相談支援体制を早期に実現している 中間	●がん医療に関する相談支援及び情報提供について誰に相談すればよいのかわからないと回答のあった人の割合		19.8% (H25度)	—	25.0% (H27度)	増加	(2) (4)
(3) 患者に必要な情報が提供されている 最終	●がんにに関する情報を手に入れるための方法(本・インターネット等)を知っている人の割合		24.5% (H25度)	—	28.9% (H27度)	増加	(2) (4)
	●がんの治療方法についての情報が、不十分と回答のあった人の割合		＜35.8%＞ (H22度)	25% (H29度)	33.6% (H27度)	減少	(2) (4)
(4) 患者の闘病上の不安や悩みが軽減されている 最終	患者やその家族の満足度	(がん治療に関して不安や不満に思う人の減少) 「主治医の他に相談先がない」と回答のあった人の割合	＜39.0%＞ (H22度)	3年以内に評価方法を決定し目標値を設定	44.5% (H27度)	基準値最新値をもとに目標値を設定予定	(22) (4)
	●がん治療を決めるまでの間、医師、看護師、他の医療スタッフからほしいと思う情報の提供があったと回答のあった人の割合		82.8% (国H26度)	—	87.8% (H27度)	国より高い	(8) (4)
(5) 患者の不安や悩みの発生が抑えられている 最終	●がん患者の家族の悩みや負担をやわらげてくれる支援・サービス・場所があると答えた人の割合		33.0% (国H26度)	—	23.1% (H27度)	国より低い	(8) (4)

県民への情報提供の推進
進捗状況概要

○県民への情報提供について
・ワンストップポータルサイト「がんネットなら」を開設し、県内の医療機関、治療、相談、予防などがんに関わる情報提供を行った。
・がん患者に役立つ情報として、患者必携や療養ガイドを作成、医療機関を中心に配布し、国が作成した一般向けがん冊子とともにがんネットならでPDFで情報提供し、印刷可能としている。
・指標の進捗状況を見ると、ポータルサイトのアクセス数の最新値が1300件と低値であり、がん治療法についての情報が不十分と回答のあった人の割合が依然として3割となっている。

(相談支援・情報提供部会からの意見)
・より正確な情報を広く提供するために、啓発や広報の方法・内容により一層の工夫が必要。
・情報提供は医療関係者や市町村を巻き込んだ周知方法の検討が必要。
・がんネットならに関しては、医療関係者に必要な情報も多いため関係者への周知が必要。

指標について
気づいた点